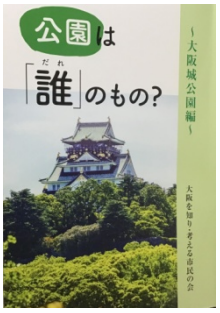
公園は「誰」のもの？～大阪城公園編



写真は「大阪を知り・考える市民の会」ブックレット新刊である。本書は「公園は誰のもの？」という問いかけから始まる。じつに多くの写真が掲載され、ビジュアルに編集された、足もとからの問題提起の書である。

公園のなかでも、大阪を代表する「大阪城公園」に光をあてる。長い歴史をもつ大阪城公園は、ここ数年で様変わりしてきた。公園の商業化が進められてきたが、とりわけ 2015 年に開始された「大阪城パークマネジメント事業」（PMO 事業）という指定管理者制度による民間事業者の参入により、大規模な商業施設が林立するようになった。その結果、なにが起こったか。観光客が増え、一見すると活況を呈しているようであるが、貴重な樹木の伐採など、自然破壊が進んできた。写真下は 2015 年 4 月からの 3 年間で商業施設建設のために伐採された樹木の本数を示している。これは大阪市が公開した樹木管理データをもとに集計したもので、低木を除く中高木の伐採本数を表している。3 年間に、大阪城公園の木が 1174 本も伐採されたことが分かる。しかも市民はこの事実を知らされることなく、報道もされなかった。大阪市に対し情報公開請求をして初めて、これだけの木が伐採されたことが分かった。

樹木伐採本数（樹種別）

樹種	伐採本数
ケヤキ	276
クス	252
カイヅカイブキ	201
イチョウ	123
カシ	93
ニレケヤキ	45
トウカエデ	38
マテバシイ	35
ニレ	24
アカシア	12
シラカシ	12
その他	63
合計	1174

樹木伐採本数（商業施設別）

商業施設名	伐採本数
大阪城南バス駐車場	7
大阪城公園駅前駐車場	201
噴水エリアコンビニ	26
ジョー・テラス・オオサカ	405
ミライザ大阪城	22
噴水エリア商業施設	175
クールジャパンパーク大阪	338
合計	1174

渡辺武・元大阪城天守閣館長が「大阪城公園への思い」を特別寄稿している。その最後だけ紹介したい。

大阪城公園は、1960 年代の将来整備計画論争の中で、広大な元軍用地を新たな諸施設の乱立に供せず、市民に開かれたゆったりとした緑と花の史跡公園にしようという決断が下され、その後の整備が進められた結果大きな成果を挙げたもので、全国各地の大城郭跡地公園と較べても優れたものでした。その後、多くの寄付樹木を含め大阪城公園全域に多様な木々が植栽され、いまでは 20 数万本、花木も多く、小鳥の楽園としても知られるようになりました。この成果をさらに確固たるものにしてゆくにはもっと時間と手間がかかります。さらに、「特別史跡大阪城跡」としての調査・整備・活用についてはまだ前途遼遠です。

このような思いで眺めている私にとって、近年の安易な商業主義的再開発路線には賛同しかねると言わざるを得ません。たとえば、その本性丸出しのような数年前の橋下徹前市長肝いりの「西の丸モトクロスレース」。このような愚劣な興業など二度と繰り返しては大阪の恥です。ともあれ、「大阪城公園は利用の仕方でもっと儲かるやろ」というような発想での再開発は勘弁してほしいと思います。

（2019 年 2 月 25 日）